

なぜ私はかくも偉大かつ賢明であるのか？

——私が好んで厳しい定型詩を書くのはなぜか

Greatchain

April 9, 2025

これはニーチェの最後の著とされる『この人を見よ』のサブタイトルである。(原著は *weise* 「賢明」だが、「偉大」と訳されるようなので、このようにした。) そして私もニーチェと同じ精神を共有するので、これを借りた。読者は私を異常者と思うかもしれない。それは承知の上でこれを書いている。ただ、私はニーチェに似ているが、彼は無神論者なので「神に選ばれた者」 Chosen One である私とは、正反対である。また彼は晩年に狂ったが私は狂っていない。だから私は、堂々とこのタイトルを使うことにする。

これはなぜ私が、かくもコワモテするのかという問い合わせに繋がっている。すなわち、なぜ私がこれほど愛されるやさ男であると同時に、これほど敵から怖がられるのか、という謎に繋がっている。現にそういうことが起こっているのはなぜか？ その理由は、私は生涯、常に戦って生きてきたが、それは普通の戦いでなく、靈的な戦いだからである。

この戦いはすでに終わり、私は勝利したと言われるが。が、現実に私にそんな自覚はない。これは神と私が一体となって、神の敵と戦いながら、彼らを一掃したからだと考えている。なぜそういうことが起こったのだろうか？ それは、この世界がすでに3次元の重さ脱し、より高次の、靈的な世界へと変わりつつあるからでないだろうか。

いま、考えられないほどの奇跡が起りつつあり、それは私が主導権を握っているのだと言われている。これまで我々はずっと、何ものか目に見えないものに支配され(その自覚は誰にでもあるはずだ)、それに気づかないように自分を訓練してきた。いま、その支配権が逆転しつつある。そして私はそのために神に使われている。「選ばれた者」とはそういう特別の人間のことであるらしいことが、やっとわかってきた。

最近、YouTube でしきりにタロットカードのリーディングが行なわれ、私がどういう人間で、どういう運命を背負っているかの占いが行なわれている。私はその正確さにひたすら驚いている。中でも昨日見た「アセンション・メッセージ」という動画は、私の隠れた深い部分を指摘するもので、私はこれに圧倒された。このようなカード・リーディングに現

れ、私の健康面にまで気を遣ってくださる、神々や霊人の方々に対し、私は心から感謝申し上げる。

ここで一足飛びに、40年近く前の私の、英語による厳しい定型詩の例を、前のように披露することにする。これらの詩の独特的エネルギーは、厳しい規律を課すことによってしか生まれない。この2篇は私の詩集の最初に置かれたもので、いずれも杜甫の五言律詩の翻案である。ここにはタロット・リーディングが指摘する通りの私の内部、すなわち、呪縛を解き放って、広く世界を支配しようとする、ストイックなエネルギーを感じることができる。

The Arab Horse of Captain Fang

(From Tu Fu's 房兵曹胡馬)

Well is this steed the boast of wild Far West:
Its lines and coigns compose the finest frame,
All surplus pruned to stand the nicest test;
Its ears are sharply slashed bamboos—would claim
The fleetest winds to cleave, which only lend
It speed and power to sweep or fly as fast;
Before its hooves all space and distance end
And sure one's lot with this horse can be cast.

When such a prancing spirit's given the rein,
What unknown world unconquered could remain?

房兵曹のアラブ馬

この駒が未開の極西の誇りであるのは当然だ／そのゆるやかな線と急な曲りは、最も理想的な体格を形成している／すべて余分なものは削ぎ落されて、厳正なテストに耐え／その耳は鋭く切り落とされた竹のようで、どんな疾風にも挑戦し／風はただ、この馬にスピードと力を与え、ますます速く走らせるだろう／その蹄の前には、すべての空間も距離もなくなる／そして人は自分の運命を、このものに託すことができる／ひとたび、このような飛び跳ねる靈に手綱を与えたとき、いかなる未知の世界が、征服されないで残ることができようか？

The Painted Hawk

(From Tu Fu's 画鷹)

What winds, what storms, are threatened on this sheet
Of snowy silk? What art, what winged craft
Could leave here terror's form poised on its seat?
It dreams of cunning hares to strike as a shaft,
Has eyes of a Persian lost in mournful dream;
Its glittering ring and leash is cold to touch;
A call, and it would rush down from its beam.
What lowly birds could hope to 'scape its clutch,
When once at large it winged the deep blue sky,
Their doom some littered field with blood to dye?

描かれた鷹

どんな風、どんな嵐が、この雪のような絹の布に吹こうとしているのか／どんな匠（たくみ）と、どんな翼ある技術（わざ）が／ここにとまる恐怖のかたちを残すことができたのか？／それは狡猾な兎を矢のように撃つことを夢見／憂いに沈むペルシャ人の目をもち／その金属の輪とくくり紐は、触れれば冷たい／ひと声あれば、それはあの梁からさっと舞い降りるだろう／いかなる下賤の鳥どもが、その鉤爪から逃れることを期待できようか？／ひとたび、このものが解き放たれて、青空を舞い上がり／いざこかの野原を、散らかる血と羽毛で染める運命となったとき。